※令和４年度以降入学生用

学校番号	３００１

令和５年度　家庭科

教科	家庭	科目	家庭基礎	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	未来へつなぐ家庭基礎３６５（教育図書）						
副教材等	―						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

この科目では、実習やグループでの話し合い、ワークショップなど様々な体験的な学習を取り入れ、実践的な力を養うことを目的としています。また、知識や技術を身につけるともに、互いに尊重しながらコミュニケーションをとり、多様な考えを知り、自分なりの考えを深めていってください。生活の向上、及びよりよい自分の人生のための時間になることを願っています。楽しみながら学んでいきましょう。

2　学習の到達目標

人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭及び福祉、衣食住、消費や環境など、生活を主体的に営むための基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭や地域及び社会における生活の中から課題を見いだし、主体的に解決するとともに、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を育てる。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a：知識・技能	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭及び福祉、衣食住、消費や環境など、生活を主体的に営むための基礎的・基本的な知識と技術を身につけている。	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家庭や地域及び社会における生活の中から課題を見いだし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身につけている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて関心をもち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに。実践的な態度を身につけている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
一学期	□オリエンテーション ■青年期の自立と家族・家庭 ■生涯の生活設計	「家庭科」を学ぶにあたって〈他己紹介スピーチ〉 自己を見つめる 家族・家庭とは 法律における家族 男女共同参画 人生をデザインする これからの人生に向かって	a:青年期の課題、家族･家庭の意義、社会のかかわりについて理解し、人の一生を自分の問題として捉えるための知識を身に付けている。 b: 人の一生を自分の問題として捉え、課題を見出し、その解決を目指して、考えを深め、表現している。 c: 学習内容に関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。	定期考査・レポート課題	定期考査・行動観察・レポート課題・振り返りシート	行動観察・発表発言・レポート課題・振り返りシート
	■衣生活をつくる □他者と自分とコミュニケーション１	被服実習（３回／計６時間）〈基礎縫いを取り入れたエプロン制作〉 被服管理 暮らしを考える 自己を知る、他者を知るワーク	a:主体的に生活を営むために必要な基礎的・基本的な技術を身につけている。 b: 生活についての考えを深め、表現している。 c: 意欲的に実習に取り組み、実生活に活かそうとする実践的な態度を身につけている。	作品制作・技術テスト		

※令和４年度以降入学生用

二学期	■子どもの生活と保育 □他者と自分とコミュニケーション２ ■共生社会と福祉	妊娠の不思議と胎児の変化 いのちの重み 子どもが育つ力 親として育つ 社会で子育てを支える 愛されて育つ 〈地域連携 及び 協力授業〉 ○ 親子交流授業 （地域親子協力） ○ 親になることを考える： 子育てインタビュー （教員/OG/OB 協力） ○ 支援機関ビデオレター テーマを語る〈スピーチ〉 共に生き、共に支える社会	a：生命の尊さ、子育ての意義、保育者やまわりとのかかわり、家庭、社会の役割について理解している。 b：人間形成の基礎となる幼児期のかかわりや子どもを産み育てることの意義ついて考えを深め、表現している。 c：自分の現在、未来と結びつけながら考え、学習に取り組もうとしている。	定期考査 ・ レポート課題	定期考査 ・ 行動観察 ・ レポート課題 ・ 振り返りシート	行動観察 ・ 発表 発言 ・ レポート課題 ・ 振り返りシート
	■消費生活と意思決定及び 生活における経済計画 □他者と自分とコミュニケーション３	契約の重要性と消費者問題、消費者保護のしくみ 求人票・給与明細を読み解く 将来の経済計画 自己を知る、他者を知るワーク	a：消費行動における意思決定や消費者問題の原因と被害について理解している。 b：消費行動における意思決定や契約、消費者問題について具体的に認識し、消費者として適切な判断ができる力を持っている。 c：学習内容に関心を持ち、現代の消費生活について考えようとしている。			

※令和４年度以降入学生用

三学期	■食生活と健康